

皇居吹上御苑からのヒラタクワガタの初記録

野村周平¹⁾・佐藤 尊²⁾

¹⁾ 国立科学博物館動物研究部 (nomura@kahaku.go.jp)

²⁾ 〒 271-0092 松戸市松戸 1373 (ke-sato1@ka7.koalant.net.jp)

The First Record of *Dorcus titanus pilifer* Snellen van Vollenhoven, 1861 (Lucanidae) from Fukiage Garden in the Imperial Palace, Tokyo, Japan

Shûhei NOMURA and Takeru SATO

緒言

皇居から記録された甲虫の種数は、野村ほか(2000)で738種が発表され、その後の調査報告である野村ほか(2006)で32種が追加され、合計770種ほどに上っている。クワガタムシ科ではこれまでノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus* とコクワガタ *Dorcus rectus* が知られていた。2種はいずれも非常に普通で個体数が多く、カブトムシやカナブン(いずれもコガネムシ科)とともに、夏季、バナナトラップで多数採集される。

国立科学博物館では2009年から「皇居の生物相調査第2期」が実施されることとなり、カブトムシおよびクワガタムシ類を含めた大型甲虫の個体数消長の現状を把握するため、2009年度を予備調査、2010年を本調査1年目として、調査を実施した。この調査の中で、2009年に採集され、同定を保留していた小型のクワガタムシに産卵させて飼育したところ、ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer* の成虫が羽化したので、皇居初記録種としてここで記録しておきたい。

材料と方法

1) バナナトラップ調査の日程

バナナトラップ調査は、2009年の予備調査と2010年以降の本調査で、方法と期間に若干の違いがある。しかしここでは2010年以降の調査については無関係なので言及しない。2009年の調査は、7月と8月の2ヶ月間実施した。2009年6月25日にトラップを設置し、一週間後の7月2日に回収した。その一週間に捕獲された甲虫の種類と個体数をカウントし、全個体を再度生きたまま調査地へ放した。そして次の一週間のために、新たな餌を入れたトラップの再設置を行った。この回収再設置の作業を毎週一回、8月いっぱいまで行った。

2) トラップ調査の用具と方法

当該の定期トラップ調査は、ノムラホイホイと呼ばれるベート(餌)トラップを用いて行った(図1A)。ノムラホイホイとは、飲料水用の1.5Lまたは2.0Lのペットボトルを加工して、外面をスプレーラッカーで塗装し、針金で固定することができるようにしたものである(図1B)。このボトル1本につき、毎回新鮮なバナナ1本を皮をむいて、皮も実も入れ、ボトルの中で分解し、においが出るようにした。設置は園内の立木の地上約1.5mに針金で固定した(図1C)。調査地1ポイントにつき4本のボトルを設置回収した。

3) トラップ調査地の概要

皇居吹上御苑内にて当初St.1(果樹園内)、St.2(滝見口門北西)、St.3(滝見口門北側)にてトラップ調査を開始したが、St.3はタヌキやハクビシンのような獣類による被害が相次ぎ、データが取れなくなったので、その場所を放棄し、St.4(白鳥濠東側)へ場所を変更したが、ここも間もなく調査不能となり、最終的にはSt.1および2の2か所のデータしか取れなかった。このため翌年以降は太い針金を用いて強化したボトルに変更した(図1D)が、2009年内はこのような措置は行っていない。

調査結果

筆者の一人佐藤は2009年からのバナナトラップの設置回収を担当した。2009年8月7日の調査では、St.1でカブトムシやノコギリクワガタ、コクワガタ等の多くの大型甲虫類を捕獲し、カウント作業を行った。その中にコクワガタに大きさや形はよく似ているが、見た目がわずかに異なる♀のクワガタ個体があったので、同定作業も兼ね、持ち帰り産卵させることにした。なお本個体は後日標本作製して体長を計測したところ、27mmであった。



図1. ヒラタクワガタが発見された2009年度皇居吹上御苑内での甲虫類発生調査の状況。A：クヌギ樹幹に設置されたノムラホイホイ；B：同左，拡大；C：佐藤がノムラホイホイを設置中の状況；D：害獣対策を施したノムラホイホイ（2010年度）。

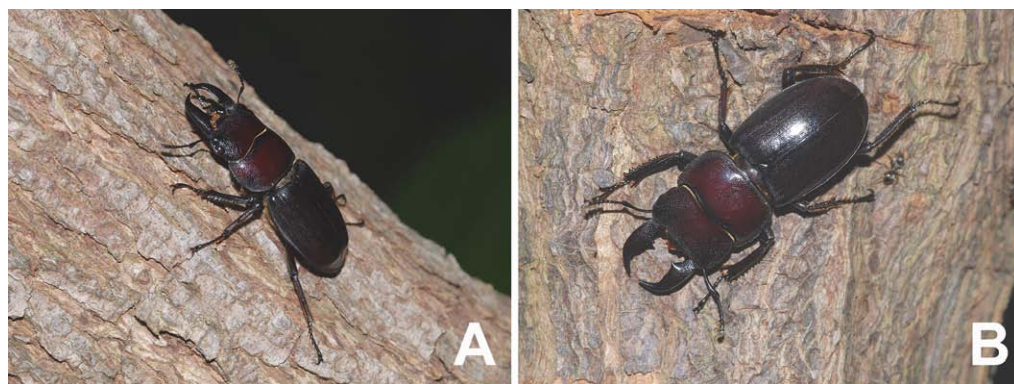


図2. 皇居吹上御苑内より採集されたクワガタ♀から採卵，飼育され，羽化したヒラタクワガタ♂（A，B）。

縦 20×横 15×高さ 15cm の水槽に産卵木を 1 本入れ，発酵マットを敷きつめて，持ち帰った個体を入れ，飼育した。同年 10 月の終わりには，水槽の底に 1 頭の幼虫を確認することが出来たので，ビンにマットを固く詰め，幼虫を移した。また，それ以降，幼虫を確認することはなく，成虫も死んでしまった。

翌年，2010 年 8 月に 1 個体が羽化し，野村が検した結果，ヒラタクワガタ♂と同定された（図

2A, B）。本個体は体長 30 mm（大アゴ含む）であった。

考察

皇居吹上御苑から，これまで皇居内から記録のなかったヒラタクワガタを確認した。現在のところ，皇居から確認されているヒラタクワガタはわずか 2 頭であり，在来でなく移入であることをうかがわせる材料は何もない。しかしながら移入である可能性を全く否定することはできない。この

点引き続き、調査の継続が必要と思われる。

しかしながら少なくとも上記の調査地点においては、ヒラタクワガタの生息密度はほかの2種に比べて明らかに小さく、ノムラホイホイによる発生調査に大きく影響する可能性はない。むしろなぜヒラタクワガタだけが低い密度で出現しているのかという点に興味を持たれる。

皇居内でヒラタクワガタが継続的に発生しているとすると、他の2種や他の大型甲虫とどのように、生態的な行動を異にしているのか、他の種との競合関係がどうであるのか、今後明らかにされるべきであろう。

また、カブトムシやアオオサムシのような他の大型甲虫が、皇居内に生息しているタヌキヤハクビシン、カラスなどの天敵に捕食され、いわゆる淘汰圧を受けていることは明らかである。それではヒラタクワガタはそれらと同様な状況にあるのか、あるいはより強い淘汰圧を受けた結果、生息密度が低くなっているのか、今後検証されるべきと思われる。

謝辞

本研究に多大な協力をいただいた、宮内庁庭園課の北沢克巳課長はじめ課員の皆様に厚く御礼申し上げます。また、トラップ調査の実施についてご助力賜った東京農業大学昆虫学研究室の小島弘昭教授ならびに学生諸氏に厚く感謝の意を表す。

引用文献

- 野村周平・平野幸彦・斉藤明子・上野俊一・渡辺泰明, 2000. 皇居の甲虫相. 国立科学博物館専報, (36): 185-255.
 野村周平・上條哲也・市野澤慎, 2006. 皇居における空中浮遊性甲虫の多様性と動態—2004年度地上FITによる調査. 国立科学博物館専報, (43): 187-240.
 野村周平・小島弘昭・佐藤 尊・村木朝陽・神崎太郎・原田博史, 2010. 皇居吹上御苑における大型甲虫4種の季節消長と高度差による比較—特にサブキャノピー層に注目して. 日本昆虫分類学会第13回大会講演要旨, 国立科学博物館, 東京都新宿区, p. 2.

(2012年10月6日受領, 2012年11月25日受理)

【短報】カノコヒラタケシキスイを秋田県で採集

カノコヒラタケシキスイ *Epuraea (Epuraea) fuscicollis* (Stephens, 1832) は、北海道倶知安町において本邦初記録となったケシキスイである (Kashizaki & Hisamatsu, 2011). 本種は、国外ではモロッコ、チェンジアなどアフリカ北部やイラン、ロシア等の国々に産し、ヨーロッパではブナ科コナラ属の樹種の樹液に集まる。柏崎氏によれば、本種は比較的得やすい種で、北海道ではバナナトラップが有効とのことである。筆者は秋田県で本種を得ているので報告する。



図1. 秋田県産カノコヒラタケシキスイ.

1ex., 秋田県仙北市田沢湖玉川戸瀬, 9. VII. 2005 (筆者採集・保管・写真); 4exs., 同, 17. VII. 2005 (筆者採集・保管); 3exs., 同, 3. VI. 2006, (同); 22exs., (筆者採集・22exs.のうち12exs.は筆者, 他は柏崎氏保管), 1. VI. 2007, (同); 6exs., 同, 17. VI. 2007, (同);

3exs., 17. V. 2009 (同).

体長は2.5～2.7 mm. 前胸背板中央の黄紋部分

の幅が広がり、上翅会合線付近に上下に列ぶ2つの黄紋が繋がったりする個体があるなど、斑紋には変異が認められた。2007年採集の2例は、ペットボトルを使用したバナナトラップで、他はミズナラの樹液から採集した個体である。

末筆ながら、報告に際し本種の同定および国内での知見をご教示いただき、学名の確認でご配慮いただいた柏崎昭氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Kashizaki, A. & S.-T., Hisamatsu, 2011. New distribution records of two sap beetles (Coleoptera, Nitidulidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 1(1): 163-165.

(沼田 仁 011-0903 秋田市寺内油田 3-9-13)